

代表者の上京など其主なるものとす。

▽組合同盟會の應援 労働組合同盟會にては十六日夜本所區押上町友愛會東京聯合會本部に加盟組合代表者百二十餘名參集し、協議の結果、十九日惟一會館樓上に應援演說會を開くこと、二十四日各組合大示威行列を行ひ古河鑛業本社と飛鳥山古河男爵邸に迫り、古河男に對し實行委員より反省を促がすこと、罷工同情金を募集すること、應援のピラを撤くこと等を申合せ、更に足尾聯合會に對し直接應援のため同地出張中の東京聯合會主事棚橋小虎、東京鐵工組合幹部山本懸藏兩氏を改めて労働組合同盟會代表者となす旨打電したり。

▽協調會の奔走 協調會は事件の當初より町田囑託を足尾に派し、更に十二日には荒川副參事足尾に急行して(十三日歸京)情報の聚集を行ふところあり、尙田澤理事及武藤情報課長足尾に向ふ豫定なりしが、方針を一變し十五日武藤情報課長桐生に出張し、町田囑託を同地に招き情勢を聴取するところあり。是より先き、十一日町田囑託が長屋立ち退き問題に對し、會社側に警告を發するの報あるや、古河本社は十二日氏家労働課主任をして協調會に小林勞務課長、武藤情報課長を訪問せしめしに對し、町田氏に實行上の權能を託せられ居るやに就て質問するところあり、暗に其召還を求めたるも、協調會側にて「町田は調査のため派遣せるものなれば事件解決まで召還せず」とて應せざりき。十四日古河本社の昆田總務部長及古河電氣工業専務中島久萬吉男は、協調會に永井常任理事を訪ひ、懇談するところあり。是に關して永井常任理事の語るところに依れば、事件の解決の一日も速かならんことを勸説し、當時足尾に行はれつゝありし交渉が不調に終らば協調會に仲裁を一任されたしとて其諒解を得たりと云ひ、會社側は此事實を否認し居れり。兎に角兩幹部の間に懇談行はれたることは事實なり。

▽婦人代表の活動 十六日加藤氏と共に上京したる家族代表者五名は、午後五時五十五分上野驛着、鈴木友愛會長、麻生氏夫人久子を初め東京聯合會員に迎へられ、巡查五十餘名警戒の中を驛前に出で、自働車三臺に分乘し麻布宮村町の總聯合會本部に到り一泊し、翌十七日は訪問の新聞記者に足尾の狀況を訴へたり。一行は古河男爵夫人に面會し之に絶らんとするものなるが、男爵夫人が之に面會するや否やは興味を以て迎へられたり。之に關し古河男爵が十四日東京朝日新聞記者に語れる談話——前略家族達には何の罪もない。いや坑夫にも罪があると云ふ譯ではないが、直接關係のない人達にまで間接にもせよ、苦痛を與へると云ふことは誠に忍びません。且何時迄も世間を騒がす事は誠に申譯ありませんから一刻も早く解決するやう本社としても重役諸君と協議中ですが、それがどんな方法か今私の口から申上げられません。新聞で見ると坑夫の妻君たちが上京して私の家内に逢いたいと云つて居る相ですが、まだ誰も尋ねて來た人はありません。若し上京して當方へ來るやうだつたら、病氣か何か萬止むを得ない支障の無い限り、家内にも都合して逢はせ種々詳はしい事情も訊かせるつ